



Title	低温センターだより編集委員長に就任して
Author(s)	北岡, 良雄
Citation	大阪大学低温センターだより. 2007, 115, p. 5-5
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/12386
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

低温センターだより編集委員長に就任して

基礎工学研究科 北 岡 良 雄

前低温センターだより編集委員長、邑瀬和生先生は、本年3月31日をもって理学研究科をご停年退官されました。はじめに、長年の低温センター運営並びに、センターだより編集長として多大なる御尽力を賜り、心より感謝申し上げます。御苦労さまでした。大阪大学低温センターにお世話になっている関係者を代表して今後の先生のご健康とご多幸をお祈り致します。さて思い掛けなく編集長をお引き受けすることになりました、読者の皆様にご挨拶申し上げます。

私と低温センターだよりとの出会いは、かれこれ20数年前、東大物性研に在職中のころです。大阪を離れて、東京、六本木の研究室で定期的に送られてくるセンターだよりを目にしました。滞在期間2年の阪大での研究修行中には一度もみたことのなかった？知らなかつた大阪からのたより！ それは、新鮮でした。へー阪大でもこんなおもしろい研究してるんや！ 東京での「こころほそい生活」のなかで、ガンバローと奮い立たされたのが今でも懐かしく思い出されます。時を経て、かれこれ10数年前、低温センターだよりの編集委員になるように、当時長谷田研の松浦基浩先生にご推薦を頂きました。当時は、櫛田編集長の時代でした。いろんな分野に低温センター関係者がいるものやなあ！ と感心するやら、いろんな話題が交わされ、自然と記事が提案されいくものやなあと、編集委員会の自然な雰囲気を感じたものです。それは、ずっと受け継がれている“阪大オリジナル”を内容とする確固たる編集方針のためと分るのに時間はかかりませんでした。永々と積み重ねられて、山椒は小粒でも、ぴりりとひかる（しぶいでしたか）低温センターだよりは、“阪大オリジナル”の一端を簡潔に受け継いでいます。

このセンターだよりが今後も発展継承していくのは、阪大低温関係者の層の厚さからして心配なしとの、軽い気持ちで編集長をお引き受け致しました。しばらく離れていましたし、編集委員会のメンバーも大幅に入れ替わり、編集委員会の雰囲気がどのようになっているのか正直わかりませんが、いろいろな話題がだされて話が弾むように、大いにけしかけ役にまわりたいと思います。ながながと書きましたが、邑瀬前編集委員長まで受け継がれてきたセンターだよりの充実した内容を維持するには、皆様方のご協力なしには、なんともなりません。 どうか今後もよろしくお願ひ致します。